

民報 ゆうばり

被災者、3.11を語る！-ゆうばり再生市民会議にて-

「なくせ原発ふるさと返せ」福島で大集会！

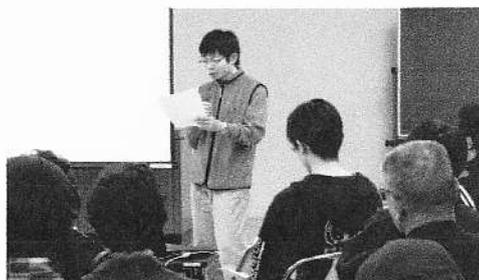
「3.11大震災を知る会」開催！

10月22日(土)、清水沢市民研修センターで「3・11大震災を知る会」が開催されました。

第一部では東日本大震災現地から届いた映像がスクリーンに映し出されました。これまでのテレビ放映以上に生々しい現場の実態でした。

第二部は被災地の石巻市より5月夕張に移住された高橋章郎さんが被災の体験を語りました。高橋さんは「普段地震については慣れていたけれど、津波が勤務している事務所2m30cmまで浸水するとは思っていませんでした。近くの自動車教習所の大型バスや自分の愛車などあらゆる車両が流されてしまった。」さらに「原発事故で安全な所を考えた結果、夕張市を選択しました」と六つの理由をあげて説明しまし

があり、「学べるまち夕張」の実現が期待できる。



市民活動が盛んで住民の協力がある。よると、ミネラルウォーター・野菜ジュースなど飲料に関するもの、乾パン・缶詰・乾麺など食品に関するもの、ロソク・マッチ・ホソカイロ・防寒着など生活に関するもの、その他懐中電灯・乾電池・ラジオなど電気に関するものなどをいつでも持ち出せるようにリュックなどに入れておくことがよいと書かれていました。



市民活動が盛んで住民の協力がある。よると、ミネラルウォーター・野菜ジュースなど飲料に関するもの、乾パン・缶詰・乾麺など食品に関するもの、ロソク・マッチ・ホソカイロ・防寒着など生活に関するもの、その他懐中電灯・乾電池・ラジオなど電気に関するものなどをいつでも持ち出せるようにリュックなどに入れておくことがよいと書かれていました。

高橋さんは「普段地震については慣れていたけれど、津波が勤務している事務所2m30cmまで浸水するとは思っていませんでした。近くの自動車教習所の大型バスや自分の愛車などあらゆる車両が流されてしまった。」さらに「原発事故で安全な所を考えた結果、夕張市を選択しました」と六つの理由をあげて説明しまし

「なくせ原発！10・30大集会in福島」

…夕張から参加しました…熊谷泰昌（夕張高校教員）

『なくせ原発！10・30大集会 in 福島』に、全国47都道府県から、1万人を超える参加者が集まりました。

夕張からは「被災地に友人がいるから、どうしても参加したい」という高3のK君のご両親に、放射能のことも含めて了承をいただき、二人で出発。

この日、福島大波地区で約3時間の除染活動ボランティア（おもに枯れ葉を拾い集める作業）に参加し、集会場を見て、その人数の多さに圧倒されました。

秋田から参加した「なまはげ」が、ステージから大包丁を持って叫ぶ「放射能を巻き散らかしたバガ者は、だれだ〜」の声に、会場からは怒涛のような「東京電力だ〜」の声が上がり、腹の底から怒りがわきあがります。

馬場波江町長は、「東京電力の上から目線の賠償責任のやり方に、強い憤りを感じている」と怒りをぶつけました。

日本共産党の志位和夫委員長が「この事故は国と東京電力の責任による人災だ！」の声に、「そうだ〜」と子ども答えていました。

夕張市民がみんな集まったような1万人集会での、現地からの報告と巨大な熱気—全国各地でこの「原発なくせ！」の運動を広げることの大切さが、胸に大きく迫ってきました。

私も「原発をなくさなければ日本の未来はない。子どもや孫たちの未来のために運動を大きく広げなければ！」と嘯みしめながら帰路につきました。

（写真は北海道からの参加者ら）



「市長と話そう会」

…市民ネットで…

「夕張メロンと夕張川の水を守る市民ネットワーク」では、10月20日、『市長と話そう会』を開きました。

はじめに副会長の福本昭男さんが、映像を用いて約30分間、夕張の貴重な自然環境と動植物の説明をしました。

市長は東京から夕張に来て、「都会にはない自然環境と人情味の熱さに感激した」と話しました。

その後、1時間以上におよぶ懇談で、市長は「これを契機に、何度かこのような話し合いを続けていきたい」と話していました。

また、「まだ夕張岳に登ったことがない」と聞いた会員が「来春、ユウパニコザクラが美しく花開く時期に、ぜひ一緒に登山をしましょ



市長を囲んで話し合う！

かしたマチヅクリをともに考えていきましよう」との意見が出され、市長は、「これからも多くの市民の声を聞いて考えていきたい」と述べていました。

2 持間近くの懇談となり、会員らは「実りの多い懇談会になり、よかった」と満足げな表情で話していました。

年金者組合書記長三浦守さんが「高齢者の住む地域で道路の傷みや除雪の事が日常生活に支障をもたらしている。財政再建の中でも必要な手立てがほしい。」と実情を訴えました。

これに対し市長は「住民の生活環境は優先して対応したい」と答えました。

年金者組合でも「話そう会」実施

10月26日、年金者組合夕張支部でも市

う」と提案したところ「今年には妻が登った。来年はぜひ、私も登ってみたい」。更に会員から、「夕張の豊かな自然を生

たっぷりと英気をやしないました！ ＝夕張年金者組合＝

年金者組合夕張支部は、10月17日～19日(2泊3日)で旅行会を実施しました。今年カルルス温泉で21名が参加しました。

参加者の皆さんは、3日間パークゴルフや景勝探索、夜は大宴会やビンゴゲーム大会などでたっぷりと楽しく交流を深め、「これからも元気に…」と、笑顔で語り合っていました。



国会「かけある記」

日本共産党 参議院議員

紙 智子

「国民のたたかいと連帯して」

第七十九回国会が開会しました。12月9日までの51日間の会期で行われます。今度の国会は、震災からの復興、その財源をめぐる問題も最重要課題ですが、その他、11月のAPECでの首脳会談に向けた、TPP問題や普天間基地問題、また、にわか憲法審査会を始動させようという動き、選挙制度問題をめぐって「一票の格差是正」を入り口に比例定数の削減の策動など、一気に緊迫を増しています。

国会開会日は、日比谷野外音楽堂で全日本医連、日本医労連などの実行委員会が「命を守る国民集会」を開催。国会内では、「憲法審査会を始動させるな！憲法を震災復興に生かせ」緊急集会が開かれました。翌日21日は国民大運動実行委員会などの集会和デモが国会周辺を囲みました。TPP交渉参加阻止にむけた各地の集會も、次々と火の手が上がるように開かれています。

私も日本共産党の三次提言やTPPアピールを持って、JA全中、全森連、全国農業会議、農民連、食健康へと回り、懇談しました。どこでも民主党野田政権への危機感をあらわにしつつ、強い怒りと、TPPをこのままなし崩し的に通させてたまるかという意志が現れていました。さっそく週明けから農林水産委員会など委員会審議から始まります。国民のたたかいと連帯して、エンジン全開！